

米飯給食用  
の保温ケ  
ス、五十  
の携帯ス  
パ、雪を溶か

あぶくま抄

す屋根用ネット、防水完備のトランシーバー：須賀川市内で生産されている二十四の品々が市の工業製品第一号に認定された。十五日、認定証が各社の代表に手渡された▼市町村としては珍しい認定制度を市が創設したことには二つの目的があるようだ。工場でどんな製品がつくられているのか？ 意外と知られていない優良工場の内容を市民に伝えることが一つ。もう一つは世界に誇れる技術を持ち合わせている企業自体を力強く奨励することにある▼うち、福島明工社はデータセンターで使われる二百ℓ用コンセントが認められた。一般家庭を含め通常は百ℓ仕様だが、省力化を図る狙いで製品化した。社長は「ものづくり自体を評価していただし、うれしい」と開発の苦勞を振り返り笑顔を見せた▼市はロゴを作成するほか、製品をホームページに載せ、広く発信するといふ。国際規格ISOほどの説得力はなく、橋本克也市長も「おそろく世界一小さな認定証でしょう」と謙遜する。しかし、認定を得た十五の工場はもちろん、社員一人一人にとって、古里から頂いたかけがえのない勲章だ。